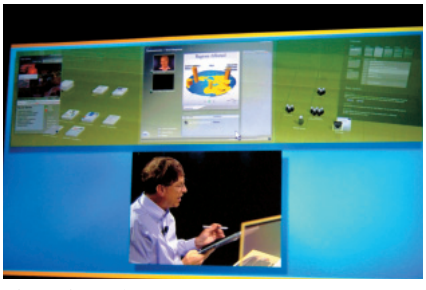
イベントレポート

世界最大の家電＆ITショウinラスベガス
International CES 2006レポート
インターネットがパソコンとテレビ、携帯電話をつなぐ

林 信行

1月5日、毎年恒例のInternational CESがラスベガスで開催された。AV機器からデジタルカメラ、カーエレクトロニクスなどあらゆる家電製品が展示され、世界中から約15万人が集まる巨大イベントだ。
今年は家電業界のキーパーソンによって行われるはずの基調講演のうち2つが、ヤフー！とグーグルという、一見すると家電とは縁遠いサーチ企業によって行われ話題になった。家電とIT業界の融合がよりはっきりと見えたイベントだった。


ビル・ゲイツ氏はWindows Vistaと、Windows Mobile、Windows Live!、Xbox 360でパソコン、携帯電話とテレビの連携の道を強調。未来のコンピューティング像を見せる。

マイクロソフトは、MTV社と提携して音楽配信サービス「URGE Music Service」を立ち上げる。Windows Media Centerから利用でき、MTVが持つ膨大なコンテンツにアクセスできる。

米ヤフー！会長兼CEOのテリー・セメル氏は、パソコン、携帯電話、テレビの連携に加え、同社の強みである検索、コミュニティ、パーソナリゼーション、コンテンツをより深いレベルで連携させる抱負を述べた。

基調講演編

パソコンと音楽とテレビの融合 すべてがコンテンツを中心に

CES開幕前日に行われたマイクロソフト社ビル・ゲイツ会長の基調講演は、近未来のコンピュータの紹介から始めた。台所や会社のデスクに用意された巨大なタッチスクリーンを通して、欲しい情報を見たり、クリッピングできたりというものだ。

すべての情報はネット上に置かれており、機器を変えても、指紋認証をすれば、同じコンピューティング環境、同じ情報を引き出して利用できる。

ゲイツは、クリッピングした映像の続きを携帯電話でも楽しめることをデモし、機器間での情報の連携を強調してみせた。

より実現が迫ったサービスも紹介された。1つは今年末に出荷予定のWindows Vistaで、新しい操作環境を中心に紹介した。

2つ目は、MTV社との提携で提供予定の音楽サービス「URGE Music Service」だ。開始時期は不明だが、Windows Media Centerからアクセスすること、200万曲でスタートすること、MTV系列の独占コンテンツの提供を行うことなどが発表された。1曲単位での購入だけでなく、月額料金で好きなだけ音楽が聴けるサブスクリプション型利用にも対応する。またMTV提供のブログなどの音楽情報コンテンツも充実させる予定だ。

マイクロソフトのウェブサービス、「Windows Live」と、録画機能付きパソコンプラットフォーム、「Windows Media Center Edition（WMCE）」との連携計画も紹介された。米国ではWindows Liveに、WMCEに録画したテレビ番組を確認する機能や、好みに合いそうなテレビ番組を推薦する機能が追加されるようだ。番組推薦サービスはMSN Messengerを通しても受けられる。スマートエージェントと呼ばれる人工知能と対話しながら番組情報を得ることができるという。

マイクロソフトのインターネット戦略では、Xbox 360も重要な位置を占める。

旧Xboxのインターネット接続率は10％ほどだったが、Xbox 360では50％の人がインターネットに接続している。同製品によるインターネット接続は、対戦ゲームだけのためではなく、ゲームや音楽、映像なども提供されるという。Xbox 360は、6月末までに450万～550万台を出荷予定ということだ。

見えてきたこれからのトレンド 「相互接続性」が鍵に

インターネットを媒介に、パソコン、携帯電話、テレビで同じ情報を共有するというビジョンは米ヤフーの会長兼CEO、テ

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

リー・セメルの基調講演でも鍵となっていた。3つの機器の特性を最大限に生かしつつも、各デバイスで情報の連携を取るのが重要というのが彼の主張だ。

同社はパソコン用に「Yahoo! Go Desktop」として Yahoo! Widgetsや Yahoo! Messengerといったサービスを提供する。その一方で「Yahoo! Go Mobile」として、携帯電話からも検索サービスやローカルサーチ、電子メールなどのサービスを提供し、パソコンと同じ情報を扱えるようにする。

一方、「Yahoo! Go TV」として、米国で人気のハードディスクビデオレコーダーTiVoを通しても、ヤフーの各種サービスを提供する。これには100万以上のビデオクリップの検索や視聴も含まれる。

これらの3つのサービスではアカウント情報なども共有される。

セメルは「我々がCESに参加したのは、ここにいる家電メーカーにヤフーのサービスに対応した機器を作って欲しいからだ」と訴えて講演を締めくくった。

Googleの講演には2つの目玉があった。1つはGoogle Packという無料のソフトウェアパッケージの発表だ。

これまでウィンドウズパソコンはOS部分だけ共通だが、その上で使われるソフトは種類が多く標準がなかった。Google Packはグーグルが推奨する無料ソフト15種類をパックにしたものだ。これにはGoogle Desktopや画像管理ソフトのPicasaのようなグーグル製ソフトの他、Adobe Reader 7や Mozilla Firefox、Norton Antivirusなど他社ソフトも含まれる。最新版を検知し自動アップデートを行うGoogle Updaterも含まれている。

2つ目はGoogle Videoだ。同社ではコピープロテクトされていないGoogle Videoのコンテンツを iPodや PSPでも見られるようにしたのに加え、Google Video Storeという動画販売サービスも開始した。有料コンテンツはGoogle Desktop Video Playerという専用ソフトで再生する。今のところウィンドウズ専用だが、Mac版の開発も進めているという。

NBAのバスケットボールゲームを試合終了24時間後から販売するほか、CBS社の人気ドラマなども販売することが決まっている。グーグルのラリー・ペイジCEOは、ビデオコンテンツ販売は、大手企業だけでなく個人にも開かれていると語った。

これら3社の基調講演からは2つの重要なトレンドが垣間見える。1つは、今後、インターネットとテレビとパソコンが、コンテンツを中心にしてさらに融合が進むこと。もう1つは、パソコン、テレビ、携帯電話といった機器の違いを覆い隠し、どの機器でも同じサービス、同じコンテンツを利用できるようにするための、インターネットOSともいえるレイヤーが登場しつつあるということだろう。

ヤフー！は「Yahoo! GO Desktop」「Yahoo! GO Mobile」「Yahoo! GO TV」の3つの新サービスの開始を明らかにした。日本におけるサービス開始時期は未定。

グーグルの創業者ラリー・ペイジ氏はロボットカーでステージに登場したり、質疑応答を受け付けたりするなど型破りな基調講演を行った。

グーグルは、デスクトップ検索や写真管理などのツールを標準化するGoogle Packsを発表。15種類の標準アプリケーションを簡単な操作でインストールや更新できる。

インテルの新ブランド「Core Duo」と「Viiv」を発表したCEOのポール・オッテリーニ氏。Viivでホームエンターテインメントを担うプラットフォームを目指すという。

ソニーのハワード・ストリンガーCEOは、e-Entertainment、Digital Cinema、Higher-Definition、PlayStationという4つのキーワードで製品戦略を説明。

放送局が制作したテレビドラマから個人撮影のビデまで、幅広く販売予定のGoogle Video Store。開始当初は米国のみでのサービス提供となる、順次他の国でも開始する予定。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

展示会場編

Windows Vista発売年を迎え 各種の機能をアピール

ビル・ゲイツ氏が毎年基調講演を行っているように、マイクロソフトは近年CESに非常に力を入れている。今回もメイン会場の入り口に近い位置にブースを構えて、Windows Vistaのベータを自由に体験できるようにしていた。

同時に提供されるInternet Explorer 7はタブブラウジング機能やRSSリーダーを搭載し、多機能化が進むほかのウェブブラウザーとの差を一気に縮めようとしている。

Windows Media Player 11は、インターフェイスを従来から一新し、コンテンツをドラッグ＆ドロップで整理できるなど、よりウィンドウズらしい操作性となっている。また、MTVとマイクロソフトが共同で始める音楽配信サービス「URGE」も、WMP11上から利用できる。

新ブランドを発表した インテルは互換性を重視

インテルは、これまで推進してきたPentiumやCentrinoにかわるブランドとして「Core Duoプロセッサーと Centrino Duoプラットフォームを発表した。

インテルも、メイン会場の目立つ場所にブースを構えて、新しいCPUを搭載した各パソコンメーカーの新製品や未発表製品を展示していた。

また、デジタルホームのためのプラットフォームであるViivにも力を入れており、会場には対応PCが数多く展示されていたほか、“Enjoy with Viiv”のシールが貼られたViivプラットフォームと互換性がある周辺機器も展示していた。

フラットTVの大画面競争 松下が世界最大の103型PDP

CESでは、大型ディスプレイの世界一は、毎年サムスンとLG電子という韓国メーカーが競っていた。しかし、今年は松下電器が103型のプラズマディスプレイを発表し、102型を展示していたサムスンとLG電子を上回り、世界最大となった。

他のメーカーも、フルHD（1,920×1,080ドット）に対応した大型のプラズマディスプレイや液晶ディスプレイを中心に、数多くのフラットパネルディスプレイの展示を行っていた。

サムスンが世界初HSDPA ケータイを展示

サムスンのブースでは、3G（W-CDMA）のネットワークをより高速にする新技術であるHSDPAを実装した端末の試作器が展示されていた。

日本でもNTTドコモやボーダフォンなどが開発を進めているが、実際に動作する端末が公開されたのは、おそらくこれが世界初となる。

デジオンがDTCP-IPに対応 PLC上でも動作

通信関係では、家庭内の電力線を使って通信をおこないホームネットワークを構築する電力線通信（PLC：Power Line Communication）のデモを、いくつもの家電メーカーが行っていた。大型TVやHDDレコーダーに、DLNA機能を搭載したものを、PLCで接続するというもの。

また、DLNAのサーバー／クライアントを開発しているデジオンは、同社のDLNAソフトであるDiXiMを実際にPLC上で動作をさせるデモを行った。同時にデジオンは、DiXiMのDTCP-IPへの対応も発表している。

ここ数年のCESでの大きな流れとして、パソコンと家電の融合が見られるが、今年はそれをより強く印象づけるものだった。

マイクロソフトのブースは年内に発売予定のWindows Vistaがメイン。VistaとXbox 360、ケータイ、メディアプレーヤーが、いかにつながるかというのがテーマ。

もう1つインテルが大きくアピールしていたViivテクノロジーのデモ。Viivプラットフォームのパソコンと家電を接続して、互換性をアピール。

松下が展示していた世界最大の103インチプラズマディスプレイ。サムスンとLG電子の102インチを押さえて世界最大。

プレイステーション3のコンセプトモデルの展示。ソニーのブースだけでなくBlu-ray Discコンソーシアムのブースでも展示されており、注目を集めていた。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

マイクロソフトのブースではHD DVDビデオをWindows Vista上で再生するデモを行い、PCとの親和性の高さを見せていた。

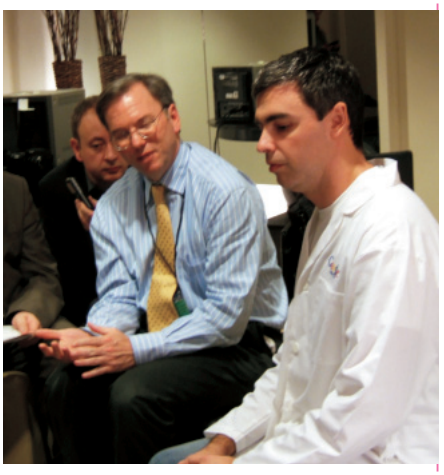
サムスンが出品した世界初のHSDPA端末による映像ストリームの配信デモ。転送速度は3.6Mbps。

デジオンが出品していたDTCP-IPをサポートしたDLNA対応ネットワークメディアプレイヤーの開発用リファレンスモデル。

ラリー・ペイジ＆エリック・シュミット　インタビュー

「もっとも大切なのはユーザーの体験」

Googleの創業者であるラリー・ペイジ氏の基調講演終了後、短時間ながらラリー・ペイジ氏とCEOのエリック・シュミット氏へのインタビューを行うことができた。この場で新たな発表はなかったものの、Googleが持つ「ユーザー体験こそ大切」という思想を再認識させられるものとなった。



インタビューに答えるラリー・ペイジ氏（右）とエリック・シュミット氏（左）

● Google Video Storeは、インターネット時代ならではの新しい映像の市場を作り出すもので、既存の映像関連サービスに大きな影響を与えます。そういった企業は生き残っていけると思いますか？

ラリー・ペイジ　それはわからないが、インターネット時代だからといってすべての既存の企業がなくなるわけではない。大事なのはユーザー体験であって、大きなお金と時間をかけることでそれを実現しているサービスもある。たとえばTiVoみたいな。そういったものは我々のサービスと関係なく残るだろう。

● Video StoreではCBSと提携したが、ほかの企業やアメリカ以外の企業と提携する予定はありますか？

エリック・シュミット　CBSはあくまでも最初に賛同してくれた企業であって、それはすばらしいことだけど、CBSだけに限定している訳じゃない。日本のテレビ局とだって条件があえば提携する。

● Google Packで有料のソフトを提供する予定はありますか？

エリック・シュミット　Google Packは、ツールバーやそのほかの便利なソフトウェアで、ユーザーが簡単に情報や画像など求めているものにアクセスできるようにするものだ。グーグルはいくつか有料のサービスもあるが、個人ユーザーなら無料のサービスでほとんど同じことができる。だいたい、有料より無料の方がみんな好きだしね。

● Google PackはGoogle OSへの布石ですか？

ラリー・ペイジ　同じ質問には何度も答えたくないよ（編注：基調講演の質疑応答で明確に否定している）。

● Google Book Searchは、いくつかの訴訟を抱えているが？

エリック・シュミット　まず、あらゆる本の中を検索できるようになることの便利さを考えてほしい。それは多くの人にとってすばらしいことだ。

● Googleはこれまで検索技術の会社だったが今回の基調講演を見たら、Googleはメディアの会社になったように見える。次の10年のGoogleのビジネスの核はなんですか？

ラリー・ペイジ　我々自身はコンテンツを持っておらず、著作権も持っていないからメディアではあり得ない。

●一部ではGoogleが大きな力を持ちすぎるのではないかという恐れを抱く人たちがいますが？

エリック・シュミット　Googleはあくまでも技術をユーザーに提供するだけだ。もっとも大切なのはユーザー体験で、ユーザーが情報やビデオやそのほか求めているものにたどり着けるようにすることが役割だ。

ラリー・ページ　私たち自身は特別な思想や価値観を持っている訳じゃない。唯一あるとしたら、人々がより多くの情報にアクセスできることが良いこと、というものだ。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.